

西堀榮三郎生誕一一〇周年記念

「新・西堀語録展」今に生きることば「関連イベント

西堀榮三郎を 京都に訪ねる旅

明治・大正の
京都の教育は
町衆が
アツイ!

西堀語録(スピリット)が生まれた背景には、明治維新後の京都復興政策によるところが大きい。今回は「番組小学校」をはじめとする京都の教育の伝統と学校の創設に力をそそいだ町衆の情熱を学びながら、西堀榮三郎ゆかりの地を訪ねます。



2013年1月20日(日)

引率:西堀峯夫氏【西堀榮三郎三男】

行き先

幼少時代(四条周辺)

西堀商店があった場所
京都芸術センター(元明倫小学校)
京都市学校歴史博物館
(明治~大正時代の京都の教育を学ぶ)
*博物館主事の解説あり
企画展「学校で出会う京都の日本画」開催中



京都大学から講師時代(京都大学周辺)

百周年時計台記念館(フレンチレストランラ・トゥールにてランチ)
京都大学大学文書館
企画展「屏風に名を残した教員たち」開催中

西堀家のお墓参り(丸山公園周辺)

知恩院
大雲院にてお墓参り



西堀榮三郎記念探検の殿堂

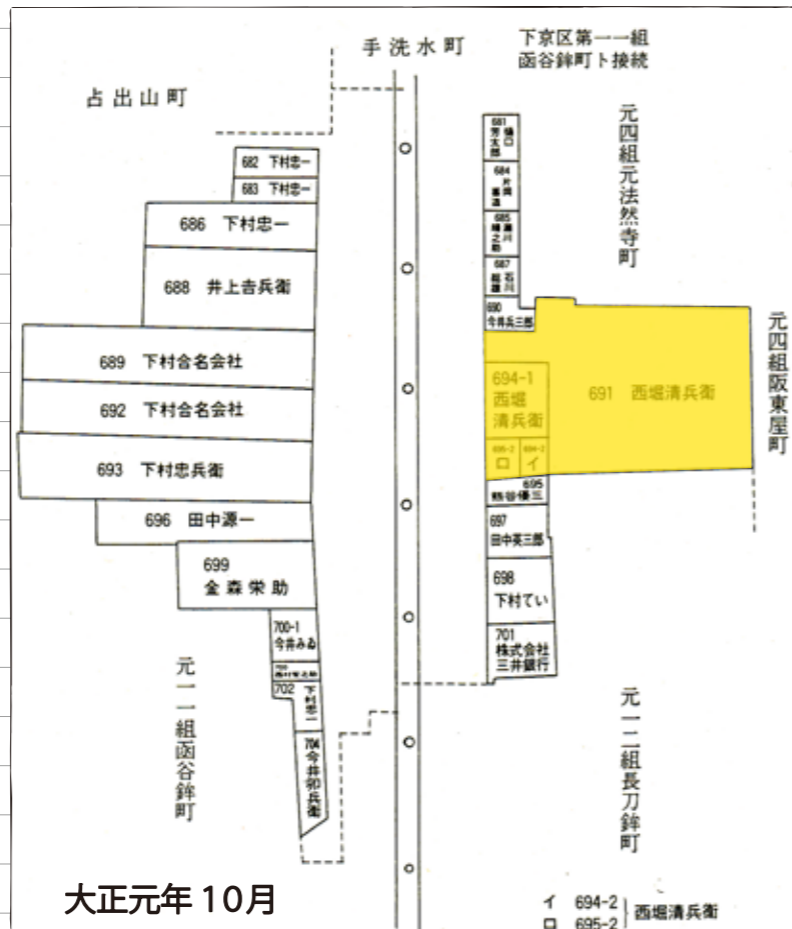
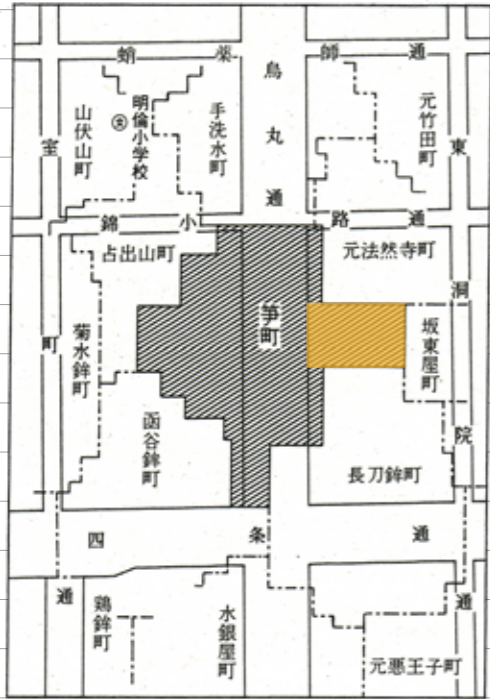
滋賀県東近江市横溝町419 TEL.0749-45-0011
tanken@city.higashiomi.shiga.jp

主催:東近江市西堀榮三郎記念探検の殿堂 協力:湖東西堀研究会

1. 四条周辺

1-1. 西堀商店があった場所(筍町) 烏丸四条上ル 株式会社 西堀商店

筍町 たかな



大正元年10月

筍町…南北に通る烏丸通をはさむ
両側町。北は錦小路通に面する。

寛文五年(1665年)刊『京雀』に、

「たかの、町本名は筍の町と名づく、祇園会七日の祭礼に孟宗が母のために雪の中なる竹の子を掘り得たる山をつくりて、まうそう山ともまたは竹の子山とも名づけてまつりわたす」とあることからわかるように、孟宗山のお話になんだ町名となった。

現在は銀行や商社の支店、本店が並ぶ。



▲ 西堀商店



▲ 孟宗山

▼ 京都商工大鑑_昭和3年より

株式会社 西堀商店
烏丸 錦 下

丹後縮緬卸商 同店は明治元年先代の開業に係り當主清兵衛氏繼承後も引継ぎ個人經營なりしが大正十一年七月を局面轉換機として同族及知友の引受けにより現組織に變更したるものなり、資本金五十萬圓(全額拂込済)重役は

取締役 西堀清兵衛(代表)、西堀清一郎、西堀重三郎、西堀宗治郎、中村治作、西野長次郎、監査役 坂本長治郎、増田善兵衛

以上諸氏就任、現在丹後中郡大野村に専屬機四十五臺を有するのみならず兵庫縣水上郡生野村に同族の經營に係る家滿仁株式会社あり小濱縮緬製機七十餘臺を運轉製品は市内一流泉服店に卸賣する外東京及北海道方面に取引す。



▼ 京都土地要録_中京区第1編より

両替町御池下	下長者町新町西	室町姉小路上	衣棚御池上	室町御池下	蛸薬師新町東	烏丸四條上	烏丸御池下	四條室町西	六角室町西	富小路六角上	蛸薬師烏丸東	姉小路烏丸西	二條新町西	三條烏丸西	新町姉小路上	室町二條上	衣棚御池下	室町錦小路下	烏丸綾小路下	富小路四條上	蛸薬師高倉西	釜座御池上	室町姉小路上	車屋町御池下	
卸	卸	卸	卸	卸	卸	卸	卸	卸	卸	卸	卸	卸	卸	卸	卸	卸	卸	卸	卸	卸	卸	卸	卸	卸	卸
躍二、九三二	中四、〇〇四	中三、六六六	中三、六三三	中三、七〇八	中一、〇二二	中三、六八五	中三、六八五	中一、二九九	中三、五七二	中一、〇〇七	中一、〇〇七	中一、〇〇七	中一、〇〇七	中一、〇〇七	中一、〇〇七	中一、〇〇七	中一、〇〇七	中一、〇〇七	中一、〇〇七	中一、〇〇七	中一、〇〇七	中一、〇〇七	中一、〇〇七	中一、〇〇七	中一、〇〇七
一居源太郎	糸井善吉	稲垣庄三郎	橋本富藏	長田源藏	西村直三	細見勝一	富田長治郎	小堂彦太郎	小川商店	沖源太郎	奥村長藏	加畑彌一郎	加畑新三	川村清藏	吉村悦之助	吉村商店	高橋商店	高山定右衛門	土田熊吉	中西萬太郎	中塚善助	長島勝治			



▲ 榮三郎



▲ 番頭(西沢元吉氏)



▲ 宵山(右端後ろ向きが榮三郎)



▲ 西堀家(帽子をもっている少年が榮三郎)

1. 四条周辺

1-3. 京都市学校歴史博物館

京都市下京区御幸町通仏光寺下る橘町 437

「番組小学校」をはじめとする京都の教育の伝統と、学校の運営と創設に力を注いだ町衆の情熱を全国に発信するため、京都市の学校に遺された歴史資料（教科書・文献資料・教材・教具等）約11,000点、また卒業生などが学校に寄贈した美術工芸品（絵画・書跡・陶磁器・染織等）約2000点（うち1,500点は各学校で收藏）を収集・保存し、展示を行っている施設。



▲ 京都市学校歴史博物館

幕末の動乱による戦禍、明治維新による事実上の東京遷都により、京都は衰退の危機に陥った。しかし、町衆をはじめとする明治の先人達は、厳しい状況下にもかかわらず、京都の復興のため、都市基盤の整備や勧業政策など様々な近代化政策を実施した。中でもとりわけ力を入れたのが“教育”で、先人達は、「まちづくりは人づくりから」の信念により、明治5年の学制公布に先立ち、明治2年に日本で最初の学区制小学校である64校もの「番組小学校」を開校させた。



探してみよう！

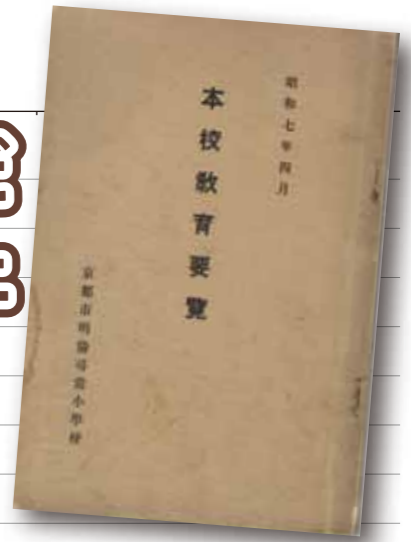
- ★ 旧成徳小学校玄関（部分）
- ★ 明倫舎模型
- ★ 「衾ねむりまさ満し」
- ★ 小学校建営の布達
- ★ 真空ポンプ…初代島津源蔵が明治15年(1882年)前後に製作した理科実験器械
- ★ 「本校教育要覧」昭和7年(1932年)

博物館の入口に展示されている玄関車寄せは、下京第九番組小学校が移転した際に建てられた旧成徳小学校の玄関部分。丸みをもつ「むくり屋根」と、それを支える2本の柱は、西洋建築のイメージを日本人の伝統的な大工の技術で実現した初期の遺構で、現存する京都市最古の小学校建築物。



▲ 京都市学校歴史博物館入り口

西堀榮三郎の探検精神を育んだ 京都の教育風土



提供・京都市学校歴史博物館

【目的】

- 1、自学的学風の確立…自学の趣味と習慣を養い、学習法を会得せしむ。
- 2、児童をして各自その個性に適応したる学習をなさしむ。
- 3、児童の自力によりて工夫し研究して獲得したる結果に価値を認めると共に、その過程は更に創造の能を養う。

第四、児童の自由学習

一、目的

- 1、自学的学風の確立…自学の趣味と習慣を養ひ、学習法を會得せしむ。
- 2、児童をして各自その個性に適應したる学習をなさしむ。
- 3、児童の自力によりて工夫し研究して獲得したる結果に価値を認めると共に、その過程は更に創造の能を養ふ。

二、学習の指導

◎ 学習の階段

- 第一步…教師の立てた計畫に従つて進む。
- 第二步…教師の指導の下に自ら計畫を立て、進む。
- 第三步…自ら目的を定め計畫を立て、進む……終局の到達点。
- 第五、六學年に到りて第三步に達し、自由に自力によりて価値のある學習の出来るやうに第四學年以下を準備時代とする。

1 学校が警察署？！

創設当時の学校は、勉強する場所だけではなく、今日の区役所、消防署、警察署、保健所、公民館といった**役所の機能を併設した京都独特のもの**だった。



▲ 京都芸術センター入り口にある明倫校校名由来の碑

2 「いろはうた」は見つかりました？

「**ね ま てじまとあん** 衾むりさ満し」は、手島堵庵が作った「いろはうた」。石門心学の教えを子どもが口ずさみやすい歌にして絵を添えたもの。明倫小学校では、校舎新築の際、この歌を歌い、校内に建てた宝錦舎でこの歌に基づいて道話^{*}が行われたという。

3 最新の教材を地域の子どもたちに！

文明開化のかけ声のもと、京都ではさまざまな新しい教材・教具が開発されるとともに、**地域住民の寄付**によって高価な校具や教具などが競って整えられた。

4 西堀榮三郎を育んだ京都の教育風土

江戸時代の終わりころ、**京都の町には多くの教育機関があり、教育に対する意識の高さが番組小学校創設の基盤**となった。西堀榮三郎氏が通った明倫小学校は、明治2年(1869年)、心学講舎「明倫舎」を転用して開いた。

大正期は、日本における第一次民主主義の時代であり、学校教育においても**自由主義思想が取り入れられ、個性教育・創造教育が主流**となって、各小学校ではそれぞれの教育方針が定められた。この結果として、昭和初期には成熟した教育が見られる。

*道話…人の道を説いた話。江戸時代、心学者によって行われた訓話。身近な例をあげて、わかりやすく道徳を説いたもの。心学道話。

2. 京都大学周辺 大学～講師時代

2-1. 百周年時計台記念館

京都市左京区吉田本町
京都大学本部構内正門正面

1925(大正14)年に誕生した時計台は、建築学科初代教授 武田 五一が設計し、大正14年(1925年)に完成した京大キャンパスを代表する建物で、ゼツェッション的な意匠を随所に留め、80年近くにわたって京都大学のシンボルとして親しまれ、かつては法経学部の講義施設、近年は本部事務局として歩んできた。



▲ 百周年時計台記念館

ゼツェッション (分離派)

19世紀末のドイツ語圏における芸術革新運動。1892年フランツ・フォン・シュトゥックやヴィルヘルム・トリュブナーは、伝統にとらわれない芸術表現を求めて閉鎖的な美術機構であるミュンヘン芸術家協会から分離した。外国人作家を招待し毎年展覧会を開催するなど精力的に活動、世界大戦による一時休止を経て復活、現在も活動を続けている。アーツ&クラフツ運動、アールヌーヴォーに影響を受け、美術、デザイン、工芸、建築を総合芸術として昇華した。



塔の高さ・・・95尺(約30メートル)
長針・・・長さ 3尺5寸(約1.35メートル)
重さ 8貫(30キログラム)
短針・・・長さ 2尺8寸(約1メートル)
重さ 3貫(11.25キログラム)

2003(平成15)年12月、創立百周年記念事業の一環として最新の免震構法を取り入れた改修工事を終え、外観や内装の雰囲気はそのままに、「百周年記念ホール」や「国際交流ホール」などを備えた学术交流の場へ、さらには京都大学から社会への情報発信の場へと再生した。

時計台の時計は、1925(大正14)年2月に時を刻み始めた。ドイツのシーメンス社製で、9,480円 83銭で購入、ドイツ人技師が組立に当たった。文字盤照明装置の設計者は、工学部建築学科初代教授で時計台の設計者でもある故 武田 五一氏。鐘は、完成当時、30分ごとに鳴っていたが、老朽化のため1950(昭和25)年頃に自然に止まってしまった。大学が1997年に創立百周年を迎えるにあたり修理され、1992年3月25日、実に 42年ぶりに鐘の音が復活。現在は、8時、12時、18時に3回、鳴るようになっている。「鐘は、縦長が突いている」という噂もあるが、実は自動。

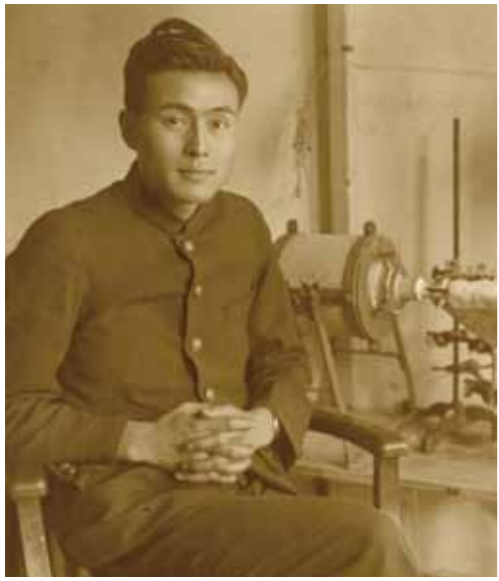
2. 京都大学周辺 大学～講師時代

2-2. 京都大学 大学文書館「屏風に名を残した教員たち」 京都市左京区吉田本町河原町15-9

京都大学は1897(明治30)年、東京大学に次ぐ二番目の大学として設置された。当時すでに官僚養成機関として実績を上げつつあった東京大学とは異なり、「本当の学問」を研究し、学生の個性を生かした教育を行う大学を目指した。「自由の学風」と称され、ノーベル賞受賞者の輩出に表れている京都大学の特色は、創立期にその源流があったと言える。

情報提供：西山 伸 (京都大学大学文書館 教授)

京都大学 なるほど! ポイント



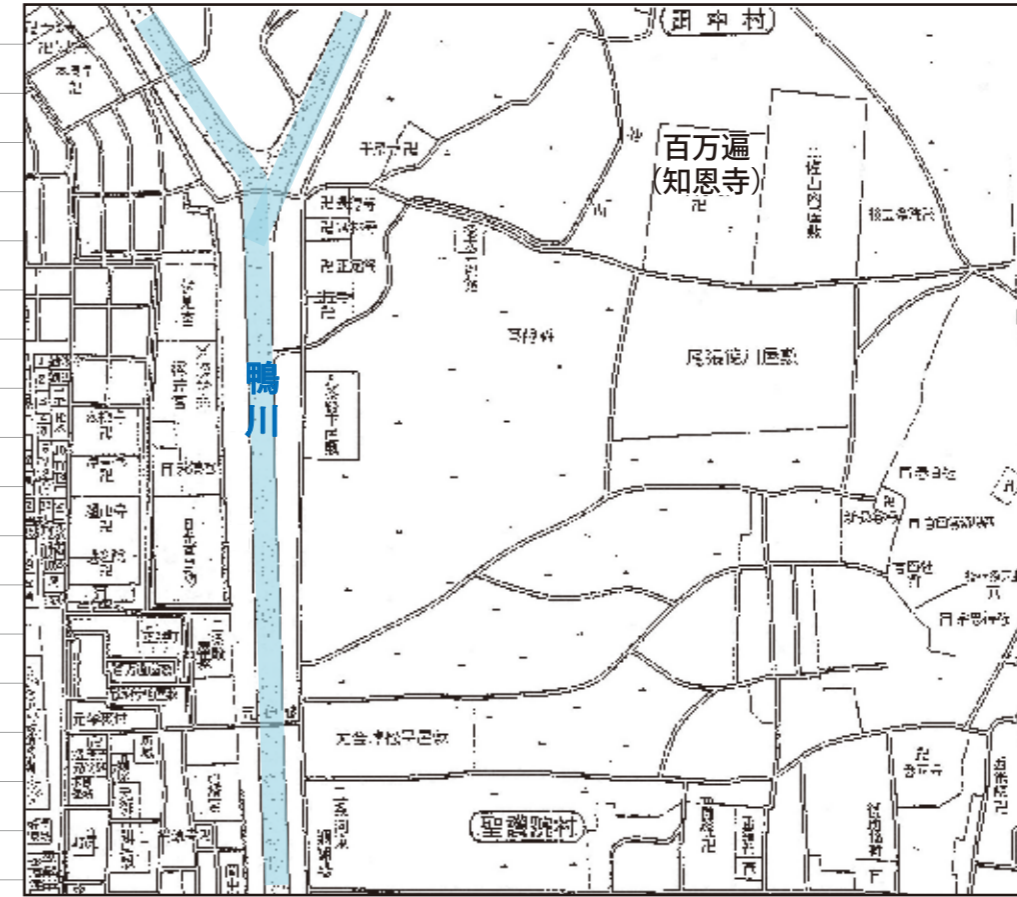
1 現在の京都大学本部構内正門は、1889年(明治22年)に第三高等中学校正門として建設された。また、吉田南構内正門・門衛所は、第三高等学校(明治27年～)が明治30年に敷地と建物を新設の京都帝大に譲り、南側の吉田二本松町に再移転した時に建てられた。昭和25年1月の三高解散後は、京都大学教養部がおかれ、近年「吉田南構内」として再整備された。

2 旧三高物理学実験場は、京大構内に現存する建物の中で最古のもので、旧第三高等学校の遺構。

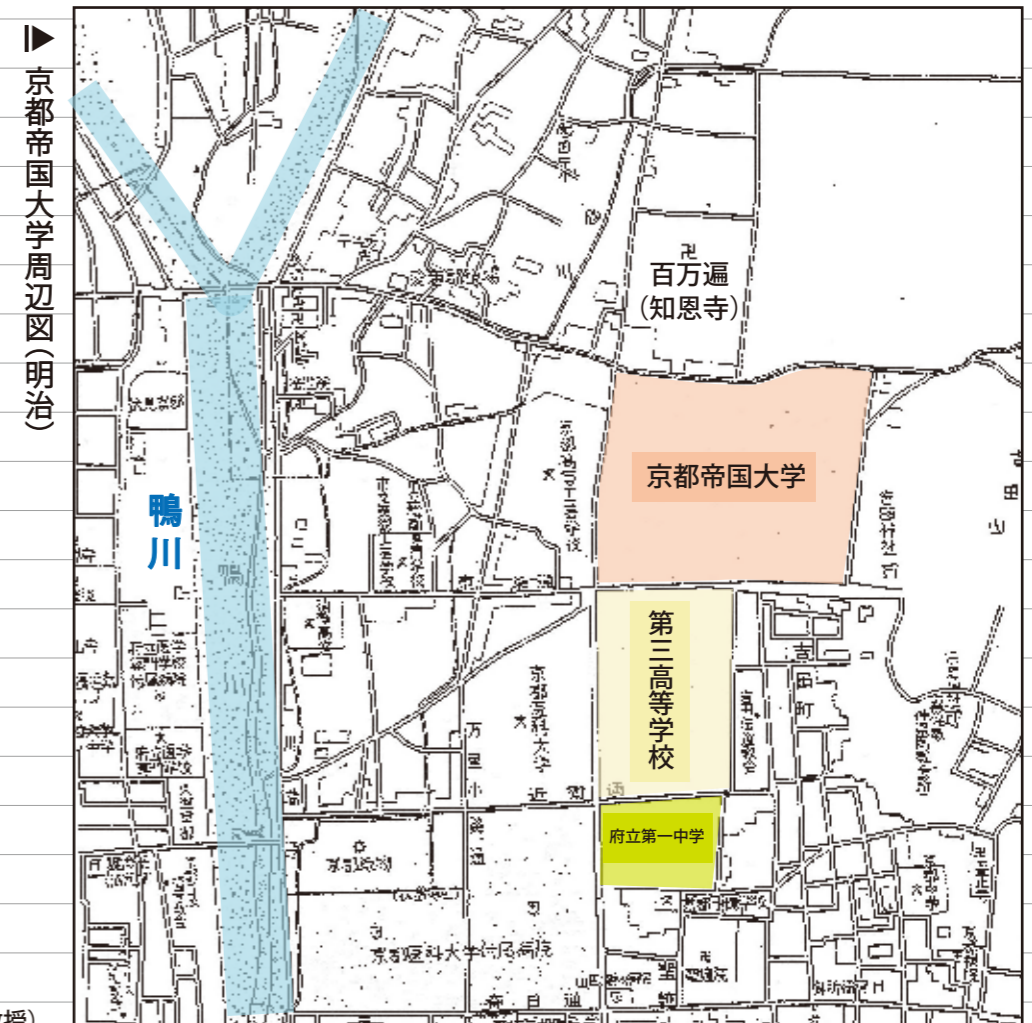
3 旧石油化学教室本館は、別名を「ノーベル賞の館」といわれる学内で最も歴史が古い建物で、階段教室になっている。明治31年(1898年)2階建て、大正11年に増築。設計者は山本治兵衛(京都大学の前身である第三高等中学校の創設工事の後半を現場責任者として担当。後に、京都帝国大学技師となり、京都帝大に新設された建築部の初代部長となった)。

探してみよう!

- ★ 京都大学本部構内正門、吉田南構内正門・門衛所
- ★ 第三高等中学校予科解散石碑
- ★ 旧三高物理学実験場
- ★ 旧石油化学教室本館



◀ 尾張徳川屋敷周辺図(幕末)



▶ 京都帝国大学周辺図(明治)

提供：西山 伸
(京都大学 大学文書館 教授)

2. 京都大学周辺 大学～講師時代

2-2. 京都大学 大学文書館「屏風に名を残した教員たち」 京都市左京区吉田本町河原町15-9

かつて、旧制第三高等学校(三高)があった現在の吉田南構内の東側に隣接する「理容 美留軒」には、合計74名の人名(雅号もに記されているものを含む)が確認できる屏風が家宝として保存されてきた。2011年12月、縁あって店主の上田浩一氏より京都大学大学文書館に寄贈され、修復を経て『屏風に名を残した教員たち』(企画展)で公開されている。

美留軒は、明治32年の創業。三高のすぐ脇にあり、創業者が京都帝国大学の第一期卒業生の頭を刈って以来、高名なマルクス主義者の河上肇博士や哲学者の西田幾多郎博士、東洋学者の内藤湖南博士、その他京大の歴代総長はじめ名高い先生方が愛用された店で、今でも多くの京大の教授らが訪れる。



▲「自由と気骨の学府を再び」
(京都大学ポータルサイト)より

- ・屏風の形式は二面(扇)で一对をなす「二曲一隻屏風」
- ・一面の大きさは、縦五尺四寸(約164cm)、横二尺六寸(約79cm)
- ・74名のうち49が京都帝国大学の教員経験者、4が事務職員、6が卒業生、4が三高教員。
- *日付の記されたものが9枚あるが、いずれも「大正9年」「大正10年」「大正11年」に集中している。

探してみよう!

- ★ 西堀榮三郎さんの中・三高を通じたの恩師である森外三郎先生の自筆
- ★ 荒木寅三郎(医学者)先生の自筆

「美留軒」

店の名前は創業者・上田留吉の名に由来する
京都市左京区吉田二本松町63



▲ 森 外三郎氏
(第三高等学校 第4代校長)

京都大学 なるほど! ポイント その2

4

東京帝国大学の数学科を卒業後、14年間の三高教授などを経て1911年に一中校長に就任。第三高等学校の第3代校長が生徒の統制を強め、また古参教員を免職すると、生徒や卒業生らが猛反発して1922年(大正11年)には激しい排斥運動に発展、森外三郎が第4代校長となる。森は、第三高等学校の初代校長折田彦市の時代に三高を卒業した人物で、折田に範をとった「自由の学風」を定着させた。一中時代から森の「自由放任の教育」のもとで育った西堀榮三郎、今西錦司、桑原武夫、ノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹や朝永振一郎らは、一中→三高→京大と、当時の京都の代表的なエリートコースに進んだだけでなく、いずれも自由を重んじる学風(校風)の中で育った。
(西山 伸 京都大学大学文書館教授)

5

京大は、名高い三高の「自由」の学風を受け継いだ「自由の学府」という印象が強く、権威や世間に盲従しない「気骨」のある教官や学生が多かった。(美留軒店主 上田浩一 談)

6

荒木寅三郎

1896年(明治29)1月、第三高等学校医学部の生理学・衛生学教授。1903年(明治36)には京都帝国大学医科大学長となり、1915年(大正4)4月、京都帝国大学で初めて公選により総長に就任(第7代:1915-1929)。榮三郎さんが大学-講師時代を過ごした当時の総長。

7

京大では1919年(大正8年)に卒業式が廃止され(1927年に復活)、1921年(大正10年)には従来の9月入学が4月入学に移行した。榮三郎さんが浪人している期間のできごと



講師時代の西堀 ▲

3. 大雲院 西堀家の本家と分家の墓にお参りしましょう！

京都市東山区祇園町南側594-1 (円山公園音楽堂の西側)

西堀家は知恩院の宗派の信者、榮三郎さんの家庭教師は尼さんだった。

大雲院は、もとは浄土宗知恩院に属していた寺であったが、現在は浄土教系の単立寺で龍池山と号している。

天正15年(1587)正親町天皇の勅命を賜り、織田信長、信忠父子の菩提を弔うため、御池御所(烏丸二条南)の地で貞安(じょうあん)上人が開山。織田信忠公の法名に因んで大雲院を寺号とした。その後、豊臣秀吉が寺域の狭いことを憂慮して天正18年(1590)寺町四条南に移転。天明(1781~)・元治(1864)の大火で焼失。明治初期(1868~)に復興したが、今度は寺域周辺が商業・繁華街化したため昭和48年(1973)に現在の地へ移転した。

探してみよう！

- ★ 銚と似た外観をした一際高い塔、「祇園閣」
- ★ 大盗賊、石川五右衛門の墓



▲ 西堀家のお墓

大雲院 なるほど！ポイント

1

高さ36メートル、鉄筋コンクリート造りの三層建。建物は祇園に因んだ山銚を模した形で、銚先には金鶏が取り付けられている。塔の最上階には平和の鐘が架けられ、一層には阿弥陀像が安置されている。一層から三層への通路壁面には、中国・敦煌莫高窟に描かれている壁画を模写した壁画が描かれている。祇園閣は、昭和3年大倉喜八郎(大倉財閥の創始者)が建立、「金閣」「銀閣」に次ぐ「銅閣」を建てようと銅葺きで、祇園祭の銚の外観をしている。大雲院が大倉家の別荘地に移転してきたときに、祇園閣も寺の所有になった



▲ 西堀家からの眺め(愛宕山)

2

安土桃山時代に大泥棒として名をはせた石川五右衛門の墓は、墓石の角の所々が欠けている。一見、歴史を感じさせるようだが、実は人々が削って持ち帰った跡だといわれている。理由は諸説あり、手癖が悪い子を持つ母親が「五右衛門の墓石のかけらをお守りの中に入れて、悪い癖が治る」と耳にして削りに来た(おそらく「希代の泥棒」の反面教師を願ったのだろう)とか、心臓を患っていた中学生の母親が、完治を願って訪れた(数々の修羅場をくぐり抜けた五右衛門の「度胸」を頼みにしたのかもしれない)など。ただし、効果どころか、碑を削って重病を患った人もいたということなので、真似はしないように。五右衛門の戒名は「融仙院良岳寿感禅定門」といい、当時としては、社会に貢献した人や信仰のあついに付けられた位の高い戒名だという。義賊。時の権力者・豊臣秀吉に対抗した反体制派のヒーロー。時代を経て、五右衛門は歌舞伎の演目などで、さまざまな姿に伝説化されている。

(京都新聞 ふるさと昔語りより)

3

昭和48年に、現高島屋南側に隣接していた大雲院(京都市下京区寺町通四条下ル)に、当時高島屋所有地であった円山の現在の大雲院の土地とを交換する形で買収した。現在は高島屋の駐車場になっているところに、昭和47年まで大雲院があった。

ちなみに、高島屋は、初代飯田新七が京都烏丸松原で古着・木綿商(屋号「たかしまや」)を始めたことからスタートしている。

お世話になった方々

- 京都芸術センター 公益財団法人京都市芸術文化協会 (石井千枝子氏)
- 京都市学校歴史博物館 (和崎光太郎氏)
- 京都大学大学文書館 (西山 伸氏)
- 京都府立総合資料館 文献課